

令和5年度

# 学校評価報告



松山市立清水小学校

## 令和5年度松山市立清水小学校 学校評価目次

- |   |                                   |           |
|---|-----------------------------------|-----------|
| 1 | 教職員・学校関係者評価結果                     | P 1       |
| 2 | 保護者アンケート結果                        | p 2       |
| 3 | 児童アンケート結果                         | P 3       |
| 4 | 学校教育評価保護者自由記述<br>とそれに対する学校の対応について | P 4 ~ P 7 |
| 5 | 学校関係者評価委員会でいただいた御意見               | P 8 ・ P 9 |
| 6 | 各種アンケート結果の考察                      | P 1 0     |

令和4年度 学校評価報告書(松山市教育委員会統一様式)

学校番号  
小 106

【評定】 4:とても思う(あてはまる) 3:やや思う(あてはまる)  
2:あまり思わない(あてはまらない) 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市立 清水小 学校

【総合判定】 A: 肯定率の平均が90%以上  
B: 肯定率の平均が60%以上90%未満  
C: 肯定率の平均が60%未満

学校長 越智 文明

※ 肯定率とは、評定(%)の評定4と評定3の合計値です。 ※ 色が付いているセルのみ入力してください。

評価領域	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評定(%)				評定平均	○成果 もしくは ◆改善策
					4	3	2	1		
教育課程・学習指導	学校は、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	A	教職員	100	35	65	0	0	3.4	○ 授業のねらいを意識した展開の仕方を工夫しながら授業が進められるようになった。 ◆ タブレット利用した振り回りの仕方を研究していく必要がある。 ○ ICT機器を駆使した新しい学習活動が進められるようになってきた。 ◆ 一人一台のタブレットの効果的な利用方法を一層研究を深める。 ○ 色々な調査結果から本校児童の学習や運動における特性がはっきりしてきた。 ◆ 個を高める授業展開の工夫や効果的な家庭学習の方法を研究する。 ○ 相手の立場に立って思いやりのある言動がとれる児童が多くなってきた。 ◆ 全教職員が児童と関わり、児童が気軽に相談できる環境を整備していく。 ○ 気持ちの良い挨拶ができる児童が増えた。 ◆ 教職員の指導する意識の統一と児童の挨拶運動の質を高める工夫をする。 ○ はっきりとした夢を持つ児童が多くなってきている。 ◆ 自分の目標や夢を持ってない児童の状態を把握し、学校の対応を考え実践していく。 ○ 登下校時の安全な歩き方について、指導に不十分な点があることが分かった。 ◆ 命の大切さを繰り返し指導し、児童の安全に関する意識を高める必要がある。 ○ ロイノートを活用した健康観察等が、日常生活に定着してきた。 ◆ 養護教諭を中心に全教職員で、今後も学校内の衛生管理に気を配る必要がある。 ○ 教室や外遊びの際、密を避けることは気を抜くと緩む傾向にある。 ◆ 自分の体は自分で守る意識を高める具体的な指導を徹底する。 ○ 通常の学級において、特別な支援が必要な児童を把握することができた。 ◆ 数少ない支援員の効果的な活用方法を考え、増員を要望し続ける。 ○ 学級の運営に困り感を抱えている教員へのサポート体制がしつかりできた。 ◆ 今後も生徒指導主事を中心に学年での協力的体制の構築や指導の充実を図る。 ○ 対話的な学びの指導を進めることにより、分かる授業が展開されるようになってきた。 ◆ 校内研修を充実し、教職員がいろいろな場面で対応できるように研修を積む。 ○ 学校として、家庭生活に関する様々な啓発を行った。 ◆ 保護者と連携を深めた指導を目的とした啓発を、ホームページや便りで継続して行う。 ○ 学校の運営方針が保護者へ浸透・徹底するように工夫した。 ◆ 参観日や学校便り等、今後とも機会を捉えて学校運営の方針を保護者へ伝える。 ○ 児童の作品を使った言語活動の充実を図り、展掲示の工夫がなされた。 ◆ 児童がタブレットを活用して行った記録を、掲示に生かす工夫をしていく。 ○ 中学校との連携強化により、児童が中学校の様子を知る機会を持つことができた。 ◆ 児童が不安に思っている点を把握し、学級担任から具体的なアドバイスを送る。 ○ 近隣の小中学校と教諭間における連携を図る工夫がなされた。 ◆ 教科等主任を中心に、近隣の小中学校との情報交換、情報共有の機会を増やす。 ○ 幼保との連携により、新入児童の入学前の様子を把握することができた。 ◆ 幼保との連携をさらに深め、新入児が小学校生活にスムーズに移行できるようにする。
			学校関係者	100	50	50	0	0	3.5	
	学校は、教科等の指導においてタブレットの活用等、効果的にICT機器を活用している。	A	教職員	100	63	37	0	0	3.6	
			学校関係者	88	76	12	12	0	3.6	
	学校は、児童生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向けて計画的に指導を行っている。	A	教職員	100	42	58	0	0	3.4	
			学校関係者	88	63	25	12	0	3.5	
学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	A	教職員	100	25	75	0	0	3.3		
		学校関係者	100	75	25	0	0	3.8		
学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。	A	教職員	100	46	54	0	0	3.5		
		学校関係者	100	50	50	0	0	3.5		
キャリア教育	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童生徒を育てている。	A	教職員	92	35	57	8	0	3.3	
			学校関係者	88	63	25	12	0	3.5	
安全管理	学校は、児童生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	A	教職員	100	46	54	0	0	3.5	
			学校関係者	100	88	12	0	0	3.9	
保健管理	学校は、個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。	A	教職員	92	38	54	8	0	3.3	
			学校関係者	88	50	38	12	0	3.4	
	学校は、「3密環境を避ける」「状況に応じたマスクの着用」及び「手洗いなどの手指衛生」など、校内における新型コロナウイルス感染症対策を適切に行っている。	A	教職員	100	50	50	0	0	3.5	
			学校関係者	100	88	12	0	0	3.9	
特別支援教育	学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	教職員	96	46	50	4	0	3.4	
			学校関係者	100	37	63	0	0	3.4	
組織運営	学校は、新型コロナウイルス感染症対策や相談事業等、管理職や学年主任等を中心として組織的に対応を行っている。	A	教職員	100	58	42	0	0	3.6	
			学校関係者	100	88	12	0	0	3.9	
研修	学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応のため、積極的に研修に取り組んでいる。	A	教職員	100	42	58	0	0	3.4	
			学校関係者	100	50	50	0	0	3.5	
保護者・地域との連携・情報提供	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	A	教職員	100	46	54	0	0	3.5	
			学校関係者	100	75	25	0	0	3.8	
情報提供	学校は、学校・学年だよりやホームページ、メール等により、積極的に情報を発信している。	A	教職員	100	71	29	0	0	3.7	
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
教育環境	学校は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努。	A	教職員	100	33	67	0	0	3.3	
			学校関係者	100	75	25	0	0	3.8	
幼保小中連携	学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	A	教職員	95	17	78	5	0	3.1	
			学校関係者	100	63	37	0	0	3.6	
	学校は、教育の質の向上のために関係園・校で連携し、学校間の系統性を重視した学習指導を行っている。	A	教職員	95	18	77	5	0	3.1	
			学校関係者	100	75	25	0	0	3.8	
学校は、関係園・校で連携し、児童生徒に対する教職員の理解や、児童生徒の相互理解の促進を図っている。	A	教職員	100	22	78	0	0	3.2		
		学校関係者	100	37	63	0	0	3.4		

## R5年度保護者アンケートの結果

4 とても思う（あてはまる） 3 やや思う（あてはまる） 2 あまり思わない（あてはまらない）  
1 全く思わない（あてはまらない） 0 分からない

※ 数値は%

	質 問 項 目	4	3	2	1	平均値
①	学校は、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	34	59	7	0	3.3
②	学校は、教科等の指導においてタブレットの活用等、効果的にICTを活用している。	30	59	10	1	3.2
③	学校は、児童の学力や体力の状況を把握し、計画的に指導を行っている。	27	59	13	1	3.1
④	学校は、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	23	64	10	3	3.1
⑤	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方を考える児童を育てている。	13	66	20	1	2.9
⑥	学校は、安全な環境づくりや交通事故やけがの防止のため指導を行っている。	37	58	4	1	3.3
⑦	学校は、児童の健康状態を確認し健康的で規則正しい生活を送る児童を育てている。	30	62	8	0	3.2
⑧	学校は、状況に応じた感染症対策を適切に行っている。	37	54	8	1	3.3
⑨	学校は、特別な教育的支援を必要とする児童に対して、個に応じた指導を行っている。	34	49	11	6	3.1
⑩	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	37	54	6	3	3.3
⑪	学校は、学校・学年だよりやホームページ等により、積極的に情報を発信している。	34	53	11	2	3.1
⑫	学校は、言語活動の整備及び展掲示の充実等の環境整備に努めている。	32	55	12	1	3.2
⑬	学校は、「いきがい交流センターしみず」や他校等を含め、地域との交流を深めている。	55	40	5	0	3.5
⑭	学校は、「ふるさと清水」を愛する教育を推進している。	35	52	13	0	3.2
⑮	学校は学校図書館等を活用し、児童の読書活動を奨励している。	36	54	10	0	3.3
⑯	学校は、奉仕の心を育てる教育活動や愛校活動を推進している。	31	57	11	1	3.2
⑰	学校は、未来を見据えた、SDGs教育を推進している。	18	55	27	0	2.9

## R5年度児童アンケート結果（上・下学年別）

4 とても思う（あてはまる） 3 やや思う（あてはまる） 2 あまり思わない（あてはまらない）  
1 全く思わない（あてはまらない） 0 分からない

1～3年→下学年、4～6年→上学年 ※ 数値は%

質問項目	4			3			2			1			平均値
	下	上	計	下	上	計	下	上	計	下	上	計	
① 授業がよくわかり、楽しく学習に取り組んでいる。	71	51	61	23	43	33	4	6	5	2	0	1	3.5
② タブレットを使って学習に役立てることができている。	72	69	70	21	28	24	6	3	5	1	0	1	3.6
③ 勉強や運動に、毎日一生懸命取り組んでいる。。	69	47	58	23	44	33	7	9	8	1	0	1	3.5
④ いじめや差別を許さない生活を送っている。	73	62	68	13	35	24	8	2	5	6	1	3	3.6
⑤ 地域の方や先生、友達に元気のよいあいさつをしている。	64	41	53	25	45	35	10	13	11	1	1	1	3.4
⑥ 自分の将来に夢をもっている。	86	63	75	11	19	15	1	13	7	2	5	3	3.6
⑦ 早寝・早起き・朝ごはんを守り、規則正しい生活を送っている。	57	33	45	26	44	35	13	23	18	4	0	2	3.2
⑧ 手洗いなどをきちんとし、感染症対策をされている。	63	57	60	25	36	30	9	6	8	3	1	2	3.5
⑨ 交通事故にあたりけがをしったりしない、安全な生活を送っている。	83	67	75	13	29	21	2	3	3	2	1	1	3.7
⑩ 「いきがい交流センターしみず」などとの交流が、自分の役に立っている。	76	44	60	14	40	27	7	12	9	3	4	4	3.4
⑪ 「ふるさと清水」が大好きだ。	75	47	61	17	40	28	4	9	7	4	4	4	3.5
⑫ 学校図書館を利用して、読書を楽しんでいる。	64	58	61	22	28	25	10	12	11	4	2	3	3.4
⑬ 清掃を一生懸命している。	79	68	73	16	28	22	4	4	4	1	0	1	3.7
⑭ SDGsの意味が分かり、自分にできることに取り組んでいる。	63	49	56	23	38	30	9	12	11	5	1	3	3.4
⑮ 学級や学年、縦割り班の友達と仲良く活動している。	78	75	77	16	22	19	2	3	3	4	0	2	3.7
⑯ 愛校活動をがんばっている(4・5・6年)		67			29			3			1		3.6

#### 4 学校教育評価保護者自由記述の主なものとそれに対する学校の対応について

##### (1) 学校に対する感謝やお礼の記述

- 毎日楽しく学校で勉強しているのは、優しく教えてくださる先生方のおかげです。授業やイベントなどで子どもたちが楽しく参加できる工夫をいろいろとしておられて、嬉しいです。
- いつもお世話になっております。懇談会で他の先生からのお話をしてくださり、みんなの先生が子どもたちを見てくださってるな、と感じました。
- 先生は児童をよく見てくださっていると思う。
- お楽しみ会などを行事に入れてくれる。
- 縦割り清掃などを通して、他学年とも交流を図ることができて、とてもいいと思う。町探検では、身近な場所をより深く知ることができたと思う。(子どもの話をきっかけに近所のお寺をお参りしました。)
- 上級生が下級生を大切にしている、学年を超えてみんなが友達になれるような環境がとてもいいと思う。
- 市内で見れば、中心部に位置しているが、地域との交流などを大切にしていると思います。
- 少人数ならではの、学年みんなが友達になりやすい環境や、学年を超えた交流が積極的に行われていると思います。
- 清水小学校では、地域の方や保護者が子どもたちを皆で見守っている感じがして、安心して通わせられます。これからもずっと続いてほしい誇れる部分だと思います。
- 挨拶がしっかりできるところ。今後も続けていけるといいなと思う。
- 今年はバザーや音楽会など催しが開催され、学校に足を運ぶ機会が増え、子どもも積極的に参加し楽しそうにしていた。

→ 学校に対して建設的な御意見や感謝の言葉をたくさんいただきました。これを励みに

全教職員力を合わせて頑張っていきたいと思います。

##### (2) 学校に改善点や努力してほしい記述

- 登下校の挨拶を皆ができるようになると思います。
- 登校時の旗当番をしているとき、挨拶がない(しているのかもしれないがマスクもしとり、声が小さいのか・・・)子が多いのが気になりました。こちらから声掛けすると返してくれる子いるのですが、きっと学校では挨拶もできていると思うのですが、校区内の周りの方にも気持ちの良い挨拶ができるようになると思います。

- 一人一人の個性を伸ばしてほしい。
- 何かテーマに対して自分たちで調べ、まとめ、原稿を書き、人の前で発表する。そういった機会がないように感じる。
- 休んだ時にタブレットで授業を受けられるようにしてほしいです。
- 「なぜ、やり直しがあるのか」という指導面では、先生の意図が伝わっていない部分もあるようなので、面倒ですが丁寧な説明を重ねなければならないのかなと感じています。(ただの罰のように感じる時もあるようです。) また、学習面では個々のやる気に応じて、夏休みなどの宿題を選択できるようになってはいますが、「好きなことしかやらない」ようになっており、苦手なことにチャレンジさせるには、全員に共通の課題を与えることも必要かと思います。
- 宿題が多すぎて自由に遊ぶ時間や活力がそがれている。タブレットを含む荷物がとても重いので、児童の体に負担が大きく、重いものを持ち運ぶのでは、デジタルの利点を活用していないと思う。行事では、全員一律がやや行き過ぎて軍隊のような印象を受ける。
- 運動会がつまらない。午前で終わるのは良いが、お遊戯会のようなダンスは不要だと思う。玉入れや綱引きなど、白熱するような運動会を期待する。
- 運動会がもう少し楽しい内容になればいいなあとと思います。
- 運動会が午前中だけなのは良いのですが、もう少し演目を増やして欲しいです。全校リレーがないのは、やはり盛り上がりには欠けると思います。音楽会も、やりたい楽器が毎年できない子がいるのに、毎年いろいろな楽器をしている子もいるのが残念です。前年にやりたい楽器がやれなかった子を優先してあげてもよいのでは？と思います。
- 学校に関しての情報が少なすぎると感じます。HPをもう少し見やすいものに、日々の子どものたちの様子や行事のお知らせなどをもっと発信してほしいです。
- トイレの洋式整備をぜひお願いします。
- 先生方のご意向もありますし、親御さんの気持ちもありますが、保護者と離れて普通クラスで過ごせない子は、特別支援学級にいつてほしかったです。何のための普通クラスか、何のための特別支援学級なのか、何のための交流学級なのか、個を大切にする姿勢は立派ですが、集団として機能しないのでは元も子もありません。親御さんのエゴだったのもあるとは思いますが、来年もこの体制が続くのであれば、正直勘弁していただきたいです。子どもに優しい精神を学ばせることも大切だとは思いますが、クラスの子どもが皆同じ土俵の元、学んでいける環境を与えて頂きたいと考えております。あの子だけ特別は、普通学級ではなく支援学級で行って頂きたいです。こういった要望は、その生徒の親から何かアプローチがないと、学校側では何も対処できないことも重々承知しております。今回このようなことを申し上げてしまい、すいません。
- バザーの品数がとても少なく感じました。もし可能であるなら、普段から自宅で眠っている使用しない余剰品の寄付を募るのもよいのではないかと思います。

→ いただいた御意見を参考に教職員で話し合い、家庭や地域の皆様お連携、協力して、

改善できるところは改善し、児童に対して指導すべきところはしっかりと指導してまいりたいと思います。

※ その他にも学校の良いところや改善を求める御意見をいただきました。たくさんの御意見をありがとうございました。

## 5 学校関係者評価委員会でいただいた御意見等

### (1) 学校の指導體制等について

- 担任の先生や周りの先生方が、誠実に日常業務でさえ激務の中、日々発生する問題にも対応している。先生の姿を見て子どもたちが信頼を寄せていることはすばらしい



ことだ。

- 先生の労働条件の改善をぜひ進めていってほしい。
- 中1ギャップに悩む生徒が出ないように、連携を深めていってほしい。子どもの成長は小中の違いなく連続しているものである。
- 義務教育は小中単独ではなく、小中9年間連続して行うという意識をさらに高めていきたいと思う。
- 挨拶に対する厳しい意見があるが、自分が交通指導に立っていて、子どもたちに挨拶をすれば、声の大小はあるにせよ、きちんと挨拶が返ってきている。継続して指導していきことが大切である。
- やはり、学校、地域、家庭の三者の連携が必要だと感じる。
- コロナ禍で、様々な意見はあると思うが、清水小の教育方針は正しいと思う。

## (2) 授業や学習内容等についての御意見

- 「学校は間違うところ」の意識を高め、失敗を恐れない子どもを育ててほしい。
- 授業が分かりやすく、楽しく学習できており、全国学テで、平均を大きく上回っているのは素晴らしいことである。ただ、学習速度についてこれない児童のフォローをしっかりとしていきたい。
- SDGs に対する教師評価が低いのは、今までにやってきた内容の分析が不十分なために、実際には多くの取組がすでになされていることに気付いていない面がある。今後とも SDGs に関する研修を重ねて、今まで実践している内容に新しい取組も取り入

れて、児童の意識を高めていただきたい。

- タブレット、スマートフォン等、ICT 機器の効果的な活用については、有効な活用方法を研究してほしい。子どもたちが、SNS に投稿されたものに安易に「いいね」と同調しないように指導をお願いしたい。

### (3) その他

- いきがい交流センターが、学校の敷地内にある良さを、今後とも最大限に生かす努力をして、子どもたちの心を育ててほしい。
- 「ふるさと清水が好きだ」と言ってくれる児童が多いことは、大変嬉しいことだ。清水地区には、多くの史跡や文化遺産があるので、いろいろ調べてみるとおもしろく、もっと好きになってくれると思う。

## 6 各種アンケート結果の考察

- SDG s 教育に関する評価が教師、保護者とも低いのは、これまでの取組を SDG s の視点から整理できてないことによると思われる。教師自身が SDG s に関する意識を高め、すでに行っている取組をしっかりと分析することが大切である。その上で、更に具体的な方策を考え実践した

り、児童や保護者に対する啓発を積極的にしたりしていくことが必要である。

- 保護者の「学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方を考える児童を育てている」に関する評価が低く出ている。一方で、児童の「自分の将来に夢をもっている」の評価で、4をつけている児童が66%いて、非常に多い。児童は将来の夢を持っており、学校でも夢を育てる教育を行っているが、それが保護者には届いていないと思われる。今後、機会を捉えて学校の取組を家庭に知らせていく手立ての工夫が必要である。また、今後一層、夢を育てる教育に力を入れていくことが大切である。
- 児童の「早寝・早起き・朝ごはんを守り、規則正しい生活を送っている」の評価が低い。今後、このことについての意識を高める啓発活動をホームページや学校だより等で行っていく必要がある。
- 総合的に教職員や児童の評価に比べ、保護者の評価が低い。保護者の学校教育に関する理解が一層深まるよう、あらゆる面で努力していくことが大切である。